

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	毎月の全体会議で地域密着型サービスの意義を確認し、グループホームでの生活の継続支援ができる様に理念を掘り下げて取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として町内会に加入している。年1回は山田の里だよりを広報として入れてもらっている。又、隣近所の方々とも超え掛け挨拶などをしてコミュニケーションをとっている。		
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	人材育成の貢献として、サマーボランティアや介護員の研修生の受け入れも積極的に行なっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見等も話し合いその経過を報告したりしている。現在、取り組んでいる事案等も運営推進会議の時に報告し家族の意見を取り入れ日々の行事等に繋げている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃より市町村担当者の方々と、連絡を取るようになっている。認定更新時には市町村の担当者にも利用者の生活の流れを伝えて連携をとっている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月1回、身体拘束についての勉強会も兼ねておこなっている。利用者の方が外出しそうな様子の時には、一緒に散歩等に出かけている。一人一人に合わせた見守りや玄関に鍵をかけずに自由な暮らしが出来るように支援している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待委員会を設置し、定期的に勉強会を行なっている。夜間帯に起き帰宅願望を訴えられたりした時には、事務所でお茶を飲むなどしてゆったり出来るようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度については、社会福祉協議会が主催する研修に参加している。研修の報告を全体会議の時に、職員にも説明している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に利用者及び家族を交えて説明をおこなっている。利用者が入院された時にも、主治医や家族とも何度も話し合いを持ち家族の方も納得されて退去の運びとしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には毎月、山田の里便りを発送したり家族会及び運営推進会議等に、意見交換会を行っている。又、苦情、相談等も常に問いかけて、何でも言って貰えるような雰囲気作りに努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長も必ず参加して、全体会議、勉強会を月1回行い意見を聞くようにしている。管理者は職員の要望や意見を聞くように心がけているが、不満や苦情等は言いがたい部分もあるので、把握出来ない部分もある。		
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長も頻繁に現場に来ており、利用者とお茶を飲んだりして過ごしている。個別に職員にも業務の不満や悩み等も聞いている。職員の資格取得に向けた支援も行なっている。		

鹿児島県 グループホーム山田の里 2ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修には積極的に参加し受講後には、毎月の全体会議で報告してもらい、研修報告書を全職員が閲覧できるようにしている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地区のグループホーム連絡会主催の、研修会や管理者研修会等にも参加して、同業者との交流を通じてネットワーク作りをしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人や家族の方と面談し困っている事、要望等を聞き、見極めてこれからの生活に安心していただける様な関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の際に本人、家族と話し合いをし、困っている事不安な事要望等にもゆっくり聞くようにしている。事業所としてどのような対応が出来るか、話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時から本人や家族に会いに行ったり、事業所にきてもらい少しでも早く馴染んでいただけるように工夫している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に本人の意思、気持ちをともに考え一緒に支えあう事に取り組んでいる。どんな事にも柔軟に対応し安心した生活が出来るように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いに寄り添いながら、日々の暮らしを家族と共に本人を支援出来るようにしている。日頃の状態をこまめに報告している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が昔からの利用していた理容室に行き続けている方や、命月等に定期的に墓参りに行く方もいる。一人一人の生活習慣に合わせたケアをしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	男性利用者が多いので食事の席や日中くつろぐソファ等、職員が間に入る等し調整役となるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所に移られた場合には、ケアプランやアセスメント、支援状況等を手渡し情報交換を行なっている。又、馴染みの職員や利用者が面会に行くなどしてダメージを最小限に抑えられるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の生活暦を含め、暮らしの希望や意向等も取り入れている。日々のかかわりの中で声掛けして把握するように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の段階でその方の生活暦や嗜好、趣味等も家族から情報を聞いて、その人がその人らしい生活を、送れるサービスに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝、バイタルチェックを行い、心身状態を全員で確認している。夜勤者にもその日の出来事を申し送るようにしている。一人一人の生活リズムを把握出来るように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリングやカンファレンスを行なっている。新しい課題が出来た時もその都度担当者会議や家族とも話し合っており、現状に即した介護計画を作成している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、排泄、食事量等も記録に残している。すべての職員が確認できるようにしている。又、家族にも1ヶ月毎に送付し情報を共有し介護計画の見直しや実践に繋げているが、活かしきれない面もある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の要望はその時々において、対応できるようにしている。緊急の外来受診送迎等も必要な支援はしている。その時により家族の方の昼食準備もしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の方が安心して地域で暮らし続けるよう、警察や町内会、地域住民との意見交換する機会等を設けている。本人の希望により訪問美容や訪問鍼灸等のサービスを利用してもらっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医による訪問診療を定期的実施している。又、本人のかかりつけ医がある場合には、本人、家族の意向に添えるようにその時により同行している。診察の際には、情報提供及び健康管理表のコピー等を渡している。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護職員を配置しており、常に利用者の健康管理や身体状況等の変化に応じたサービスが出来るようにしている。看護職員がいない時間は、介護職員の記録をもとに確実に連携を取っている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>利用者が入院する事になっても、身体状況やケアの仕方等も情報交換している。又、馴染みの職員が2～3日に1回は面会に行くようにしている。家族とも頻繁に情報交換を行い、速やかな退院支援が出来るようにしている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時に家族に終末期、看取りについて説明を行なっている。又、昨年は終末期の方もおり主治医や訪問看護等の方々とも連携を取り安心して家族も納得した最期を迎えられるように随時意志確認しながら取り組みました。</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>利用者の急変時、事故発生に備えて適切な対応が出来るようにマニュアルを作成し、勉強会等も行なっている。普通救命講習を9割の職員が受講し、実践力を身に付けている。</p>		

鹿児島県 グループホーム山田の里 2ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を行なっている。地域代表の方との協力体制もあり、訓練等にも参加していただいている。又、運営推進会議の時に家族より、AEDの導入を検討して欲しいとの話があり、23年7月にAEDを導入した。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常生活の会話を通じて、本人の気持ちやプライバシーを損ねない言葉かけを行なっている。その方により方言やその土地の言葉かけをしている。援助が必要な時でも、本人の気持ちを大切に他者の前での介護や誘導等もさりげなく行うようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	これまで培ってきた社会性を尊重し、人間関係を築いた上で本人の話を良く聞き、サポートしながら決めてもらうように支援している。難聴の方には筆談にし正確に伝わるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には1日の流れはあるが、利用者のペースに合わせた支援をするようにしている。日常生活の活性化など希望に添った基本的な事を大事にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	利用者の生活習慣に合わせて支援している。本人のニーズに添ったサービスを提供出来るようにしている。訪問美容の方が来られた時には毛染めやパーマをされる方もいる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を使うように工夫している。利用者の方に季節の行事食等も聞いてメニューに取り入れている。誕生日には、本人の意向を聞き献立に取り入れている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の体調と1日の摂取量を把握している。主治医より高カロリー補助食品を出してもらっている方もいるが、その方の状態に合わせて食事の形態やメニューも変更している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけを行なっている。自分で出来ない方には、口腔ケア介助をしている。その方により歯間ブラシを使ったりしている。夜間帯にはポリデントに浸けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握してズボンの上げ下げ等の介助を行っている。その方によりポータブルトイレやリハビリパンツを使っている方もいるが、なるべくトイレでの排泄が出来るように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを把握及び記録し、自然な排泄が出来るように食事にも繊維質の食材を取り入れたり、毎朝、ヨーグルトを召し上がって貰っている。毎日のリハビリ体操や水分補給を徹底している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	基本的には入浴日は決まっているが、本人の体調や希望等も確認して入って貰っている。入浴を拒否される方には、言葉かけや職員がロールプレイ等によって入浴支援をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後に1時間程、午睡の時間を取るようにしている。夜間帯にゆっくり休む事が出来るように、昼間に散歩やレクリエーション等をして生活リズムを作るように支援している。夜間帯に起きて来られた時には、暖かい飲み物を提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報ファイルを作成し又、薬の保管も各自のケースに保管している。薬の変更等があった時には、申し送りやノートにも記載し職員全員が確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の喜びや楽しみは個々で違う為、その方の得意分野を發揮してもらえよう、お願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉も伝えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	スーパーが近くにあるので、買い物に行きたいと言われた時には、頻繁に行くようにしている。車椅子の方でも近隣の大型スーパーに出かけたり個別に飲食店等にも家族の協力を得ながら支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得て少額のお金を持っている方もいる。外出時には自分で財布より支払いが出来るように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話は事務所にあり、いつでも利用出来るように支援している。普段より葉書を出している方も居られるので一緒に郵便局まで出かけたりして支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間においては入居者の方々が混乱されないように席等にも十分に配慮している。室内の温度、湿度管理についても一人一人衣服で調整を行なったりエアコンの温度にも配慮している。テーブル等にも季節の花々を飾ったりして工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間では、思い思いの場所で過ごす事が出来るようにソファや長椅子等の配置にも工夫している。		

鹿児島県 グループホーム山田の里 2ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の時に、本人の使い慣れた物を持って来ていただくように声かけをしている。毛布やお位牌、写真等も持ち込まれており家族や本人の意向を取り入れている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体状況に合わせ、手すりや玄関スロープ等を設置している。高齢化が進み、出来る事やわかる事も限られてきているので一人一人のわかる力を見極め目印を付けたりし自立支援に繋げている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない



鹿児島県 グループホーム山田の里 2ユニット

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

鹿児島県 グループホーム山田の里 2ユニット

66	職員は，生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない